

国有林を活用した「下呂の森を巡るツアー」の開催

～地域連携の視点から～

中部森林管理局 岐阜森林管理署
主任地域林政調整官 大島 愛彦
森林ふれあい担当 平枡 潤己

1 課題を取り上げた背景

平成27年度は岐阜県で開催された第39回全国育樹祭の下呂市サテライト会場のプレイベントとして、平成28年度は山の日制定記念行事として、岐阜森林管理署主催で国有林を見学するツアーを開催しました。

開催にあたり、地域関係者との連携、広報の実施方法などの課題や問題点が浮き彫りになり、2年間の取組結果から森林ふれあい事業のあり方を提言します。

2 取組の経過

(1) 平成27年度

下呂市は標高220mから3,052.6mと岐阜県で最も標高差があり、下呂市の多様な森林(中間温帯、冷温帯、亜高山帯)を見学するツアーとして行き先を変えて3回実施しました。



国有林見学ツアー

(2) 平成28年度

イベント実施は1回にとどめ、平成27年度の課題に残った広報活動の強化に努めました。

特に飛騨川、木曽川を水源とする美濃、尾張、名古屋の都市住民に向けて、綺麗で美味しい水が飲めるのは上流域の岐阜県、長野県の森林の恵みであることを発信しました。

(3) 地域関係者との連携

2年とも地域の森林に精通するNPO法人と連携。平成28年度は協定を締結して共催で実施しました。

広報についても、まず地域の人たちに国有林の存在や森林管理署の知名度向上を図るため、地域のケーブルテレビに出演。市広報、商工会及び観光協会のHP、地域の生活情報誌に掲載を依頼しました。

3 実行結果

(1) 平成27年度

参加者アンケートで90%以上の人が満足、次回も参加したいと高い評価を得ました。ただ、定員に満たなかった回もあり、広報の実施方法に課題を残しました。

(2) 平成28年度

イベント案の作成にあたり、署内の女性職員(非常勤職員)と自由な意見交換を行い、役所的な表現を改め一般受けする内容に修正しました。

広報の強化で、定員を超過し、先着順にもれた人にも森林・林業を啓発するチラシ等を送付し、イベント以上に多くの国民に情報を発信することができました。

4 考察

イベント実施は我々の仕事を広報するための一つの手段です。1人でも多くの国民に森林の役割や大切さを伝えること。また、国有林の存在や森林管理署の知名度向上を図るためにも、森林ふれあい事業の主体は国以外に考えられません。

また、イベント案の作成にはいろんな人の意見を聞いて民間感覚を取り入れること。広報は森林・林業関係者はもちろん、商工会や観光協会など地域関係者と積極的に交流して、署単独ではなく、地域ぐるみのイベントにすることが大切です。



尾張、名古屋の水が美味しいのは岐阜県、長野県の森林のおかげ